

一〇五年の歴史が 古河第二高等学校の 最大の自慢です

第二十八代校長 高橋 淳



同窓会会員の皆様方には、日頃より一方ならぬご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

また、先日は、創立一〇五年の同窓会の開催、誠におめでとうございます。大正三年の創立以来、続く昭和、平成、令和と四つの時代においてもなお、古都古河を中心とした県西地区の「優」として二万三千人もの卒業生を輩出できましたのは、伝統と品位を重んじる本校を巣立たれた皆様により本校をお守りいただけていることはもとより、皆様ご自身が地域で、あるいはひろく首都圏で、そして全国、海外においてもご活躍いただいていることが、本校教育におけるなによりの賜と改めて感じております。おかげさまによりまして、今春の卒業生に対しても、多くの難関大学から指定校の推薦枠をいただき、また多くの地元優良企業から生徒のご採用をいただき

ました。改めまして先輩方のご尽力に御礼申し上げます。

申し遅れましたが、私は今年四月に古河第二高等学校に赴任してまいりました高橋淳です。格式高い本校の正門をくぐるのは、二十四年ぶりとなります。平成四年から数年のあいだ、理科教諭として本校に勤務しておりました。思い起こせば、同年には昭和三十四年以来三十五年ぶりに男子が入学し、平成五年にはじきに訪れる日本の高齢化社会を見据え、現在の「福祉科」の前身である「教養福祉科」が県内で初めて設置されました。まさに本校にとっては、新しい歴史の始まりの年でした。今では、当時の卒業生のお子様たちも多く在校し勉学に励んでいます。私自身も、時を経て再赴任した喜びを感じるとともに、責任の重みを再認識している次第です。

さて私は四月に、

- ・生徒が、知る喜び・会得する喜びを感じ、元気に過ごせる学校
- ・地域と共存・協働・共栄が図れる学校

・生徒が自らの進化を実感し、主体的に進路実現を図ろうとする学校

を目指していくことを目標として掲げました。生徒たちには、常日

頃から「本校で人を幸せにする力を身につけてほしい」と話しております。社会の中での幸せの本質は、安定した生活を土台として、

人や社会から期待されること、応援されること、守られること、喜びも悲しみも共有し共に生きたいと思われることなど、人と人との関わりのなかで、心身が満たされるところに大きな要素があるといえます。そのためには、自らも人や社会を支え、守り、尽くし、共に生きようとする力を身につける必要があります。この具現化のための3つの教育上の手立てが、「学びによる考える力の育成」、「部活動や学校行事による強い心とチーム意識の高揚」、「学校生活や地域との連携による、人を尊重する心・思いやる心の醸成」と考えております。そういった意味でも、本校の教育は、学校・家庭・地域が三位一体となった共通理解のうえで図られることが重要なのです。

皆様の母校がなお一層発展できるように、教職員が一丸となり努力していく所存でおります。同窓会の皆様におかれましても、どうか「チーム古河二」の主要メンバーとして、更なるご指導ご支援を賜れば幸いです。

感謝

教頭 鈴木 俊 樹



同窓会会員の皆様さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より

同窓会の皆さまの物心にわたるご支援・ご協力を行事のたびにいただき、感謝に堪えません。

教育の世界でも「評価」が採り入れられ、久しくなりました。教職員それぞれが自己目標を設定し、その達成の度合いが「自己評価」の基礎となっています。自己目標の達成のため、また授業力を高めるために「教員相互の授業参観」も行われるようになりました。授業参観をしていて気づくことはICTを活用した授業が普通に取入れられるようになっていくことです。その代表的なものとして、県費では容易に対応できないiPadを導入するためのアプリケーション費用を二十九年度に同窓会よりご支援いただき、多くの教員が授業で活用していることです。実物があればこそ、想像ではなく、現実を活用方法に工夫が重ねられ、授業の改善・充実を図ることがで